



鳥取西高 図書館ジャーナル

鳥取西高等学校図書館

NO.7
2018. 3

芥川龍之介「鼻」→ 読んで、話して、考えた

図書館入ってすぐの
掲示スペースに展示中！

読書会の後「問い」について考え、グループで共有し、感想をまとめる読書ボードを作りました。
図書館入り口付近に展示していますのでご覧ください！その中のコメントを紹介します。



問い： ●あなたがこの鼻だったら苦しむと思いますか？

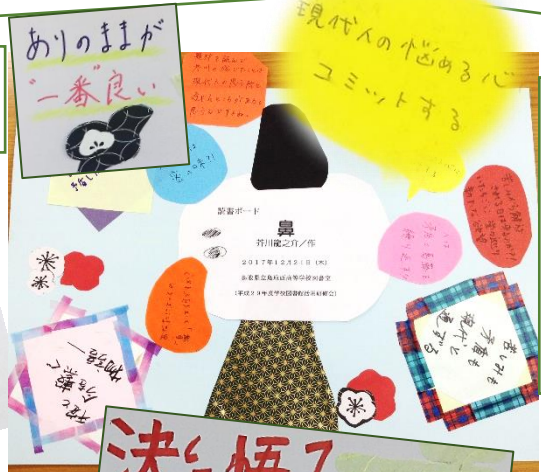
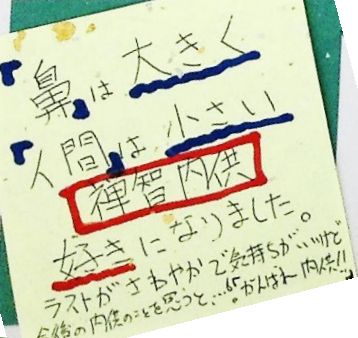
- 鼻が元に戻った内供は、今後、自尊心を傷つけられる苦しみから解放されたと思いますか？
- 今後、人々は内供にどのように接すると思いますか？ ……他

この話の最後の部分は、内供の一つの分岐点だと思う。このまま鼻を気にする無限ループに入り、嘲笑われるか、鼻をぐるぐる回すというような芸をして笑われるか……。様々な分岐があるだろうな

読み込んでいく度に、禅智内供の心境だけでなく、その周囲の人々の人間性もわかり、人間そのものの本質的な部分がさらされていくような気がした。

誰だって他人と同じなら安心するし、誰だって完璧ではない。

「周囲からどう思われているか」内供の自尊心はここから来ているのだと思う。では、周囲の目がなければ、内供は自身の「長い鼻」をどう思うだろうか？



決り悟っていません!!

知識も考えも違う人たちで話し合うからこそ、何度でも作品が楽しめるのだと感じた。他人の考えを知るほど、自分の考えが深まっていった。

万人が持つ「自己承認欲求」について、皮肉を込めて表現した名作「鼻」。人間形成の要となる高校生の時期にこそ読むべきだ。

人間の心の複雑さから生まれた悩みや葛藤がとても鮮明に書かれていて、人間らしい作品だと思った。誰にでも経験があるようなテーマだからこそ深く考えさせられ、改めて人間の奥深さを感じた。

私のイチオシ！竹田文庫 展示中

図書委員がおすすめの本を紹介しています！手に取ってページを開いて、読んでみませんか？

『まだ科学が解けない疑問』

ジュリア・ライ、ダヴィッド・サヴォルド／編



●心に残った一文（1年 H.N）

「どの疑問も自然界の神秘を思索する招待状となる」

『1冊でわかる 感情』

ディラン・エヴァンズ／著



●心に残った一文（2年 M.O）

「ヒトラーは集団的な情動が個々人の理性的な声をすっかりどこかへ追いやってしまうことを知っていた。」